

国立西洋美術館 収集方針



国立西洋美術館は、中世末期から20世紀初頭に至る西洋美術の流れを概観するコレクションの形成を長期目標として、優れた西洋美術作品の収集に努めている。

令和元年度の主な購入作品としては、スペイン絵画の黄金時代（17世紀前半）を代表する画家フランシスコ・デ・スルバランの初期の重要作《聖ドミニクス》、及び近代絵画の父と呼ばれる19世紀フランスの画家エドゥアール・マネの《嵐の海》がある。前者はドミニコ会修道会の創設者を等身大で描いた大画面の作品で、この画家に特有の精神性の高い表現を見ることができる。後者は第二次世界大戦期に松方コレクションの中から売却された後、長らく行方不明となっていたが、近年ドイツの画商が秘匿していたコレクションの中から再発見され、大きな話題を呼んだ作品である。このほか、16世紀イタリア・フランス、18-19世紀フランス・スペインの版画・挿絵本・ポスターの購入により、版画コレクションを拡充した。

国立西洋美術館 美術作品購入一覧（令和元年度）



=特別予算購入

1		種別：絵画 作者名：フランシスコ・デ・スルバラン（1598-1664） 作品名：聖ドミニクス 制作年：1626-27年 材質・形状：油彩、カンヴァス 寸法：201.5 × 135.5 cm 解説：17世紀スペインを代表する画家の初期の重要作。ドミニコ会修道会の創設者を等身大で表す。スルバランに特有の、明暗を強調した精神性の高い表現が認められる。 取得額：638,383,300円 展示予定：所蔵作品展にて公開
2		種別：絵画 作者名：エドゥアール・マネ（1832-1883） 作品名：嵐の海 制作年：1873 (?)年 材質・形状：油彩、カンヴァス 寸法：55 × 72.5 cm 解説：近代絵画の父とされる画家マネの海景画。第二次世界大戦期に松方コレクションの中から売却され、長年行方不明となっていたが、近年ドイツで再発見された。 取得額（円）：469,410,200円 展示予定：所蔵作品展にて公開
3		種別：版画 作者名：ジュゼペ・デ・リベーラ（1591-1652） 作品名：最後の審判のラッパの音を聞く聖ヒエロニムス 制作年：1621年 材質・形状：アクアティント、ドライポイント、エングレーヴィング、罫目紙 寸法：紙：350 × 255 mm／版：325 × 246 mm 解説：17世紀前半にイタリアのナポリで活躍したスペイン画家による版画作品。対抗宗教改革期に美術の主題として好まれた聖人像を表している。 取得額（円）：1,010,057円 展示予定：未定

4

種別	書籍
作者名	ミゲル・セルバンテス・サアベドラ (1547-1616)
作品名	奇想あふるる郷土、ドン・キホーテ・デ・ラ・マンチャ (スペイン王立アカデミーによる新版、ホアキン・イバエラ出版)
制作年	1780年
材質・形状	19世紀の革製本、背表紙に箔押しされた背文字と帯装飾、小口に金付け
寸法	4巻本 (29.5 × 23.4 cm)
解説	18世紀にスペイン王立アカデミーから出版された『ドン・キホーテ』の4巻本。当時のスペインを代表する版画家たちによる全頁大挿絵版画34点を含む。
取得額 (円)	2,693,484円
展示予定	未定

他8点/計12点 購入総額 : 1,113,997,092円